

ラーマヤナ

3世紀頃成立

伝説の英雄、理想的な君主

「ラーマ」



सीताहरणम् ।



मेघने यदि मे समं वारुणेऽस्यसि । कुरुते पत्न्याः पतिर्महोदाः कथं नृणां ॥ १ २ ४ ॥
यस्य वचनं श्रुत्वा सुवीर्यं सुधासिन्धुः । मेघदहनना इत्थं वीरधाम्नि पत्न्याः ॥ १ २ ४ ॥
द्विजिन्महाशयैः शर्दः ५

ラーマヤナとは「ラーマの行状記」という意味で、古代インドの大叙事詩の1つです。3世紀頃に現存の形に編さんされました。この物語はインド文化の広がりとともに、少しずつ登場人物の名前や形をかえながらアジア各地に広まり、特に東南アジアには影絵や舞踊劇、壁画などの形で残っています。カンボジアの遺跡、アンコール・ワットの壁画には、主人公ラーマと敵対するラーヴァナの戦闘の場面が描かれています。

Ramayana, compiled in c. 3rd century

The ancient Indian epic poem Ramayana is thought to have been compiled in the 3rd century. The title means “Journal of the Behavior of Rama”, and the story spread throughout Asia as it was adapted in characters and plots with an expanding Indian culture. Especially in Southeast Asia, the story of Ramayana was passed on as shadow puppetries, dance dramas and mural paintings. In the murals of the Angkor Wat ruins in Cambodia, scenes of the battle between the main character Rama and his enemy Ravana are depicted.



ラーマヤナ ^{せいぎ ごろ せいりつ} 3世紀頃成立 ^{ねんかん} 1912-1920年刊

^{でんせつ} ^{えいゆう} ^{りきりょうてき} ^{くんしゅ}
伝説の英雄、理想的な君主「ラーマ」

登場人物



ラーマ



シータ



ハヌマーン



ラーヴァナ

①



②



ハヌマーンは、西遊記(さいゆうき)のある人物の元になったと言われているよ!
それはだれ?

(こたえ)
右の欄(らん)の一番下を見てね!

本の挿絵(さしえ)は、どんな場面かな?
想像(そうぞう)してみよう!

男の人が女の人をだきあげて歩いているね。
他にはどんなことが描(か)かれているかな?
この場面はどんな場面だろう?

弓を持った人としっぽをかはえた人が話しているね。
他にはどんなことが描(か)かれているかな?
この場面はどんな場面だろう?

①
シータが、悪魔王(あくまおう)ラーヴァナにさらわれてしまう。

②
ラーマと猿(さる)将軍(しょうぐん)ハヌマーン

★猿(さる)将軍(しょうぐん)ハヌマーン
⇒ハヌマーンは、とてもかしこくて、力(ちから)のある猿(さる)の将軍(しょうぐん)。ラーマはハヌマーンをととても信頼(しんらい)していたので、シータをさがしに行くハヌマーンに、自分の指輪(ゆびわ)をわたします。

⇒ハヌマーンは、西遊記(さいゆうき)の孫悟空(そんごくう)の元(もと)になったと言われているよ。